

# そらせい

全国曹洞宗青年会

No. 125  
2004. May

特集 禅文化学林レポート

「生老病死の大海を泳ぐ」

—私が見つめ自らが行い自分の言葉で語る—

お寺散策 神奈川県常泉寺



第15期 全国曹洞宗青年会 法式委員会

# 萬燈供養

【DVD 萬燈供養の手引き】(仮題)

只今編集中



※画面は開演中のため変更する場合があります。

法式委員会では「萬燈供養」のあの厳粛かつ荘嚴なる雰囲気をもより広くご紹介しようと、映像を取り入れたDVD『萬燈供養の手引き』(仮題)を只今編集しています。

大本山總持寺祖院講師・渡会正純老師を監修に招聘し、大本山總持寺をはじめ各地で行われている法要の実際をいくつか紹介しながら、わかり易くて行い易いものを皆様のお手元にお届けしたいと思います。

## 【主な内容】

- 萬燈供養の歴史 ○差定例 ○導師・殿行の進退図 ○配役表例
- 諸準備物 ○経木塔婆サンプル ○案内状・申込書のサンプル
- 法要解説のサンプル ○回向例 ○主な寺院での法要の紹介
- 法式委員会流簡易萬燈供養差定の紹介 など

なお、このDVDに関するお問い合わせは、

〒424-0205 静岡県静岡市清水興津本町363 宗徳院内 FAX 0543-69-5893 松永 寛道  
までお願いいたします。



第15期 全国曹洞宗青年会 法式委員会

04 特集 禅文化学林レポート

13 三〇周年記念事業かわら版

15 全曹青情報局 — 青少年教化委員会紹介 —

〈研修レポート〉 喝破道場拝登報告

18 そうせいインフォメーション

— 第十二期 全曹青副会長 山田勇賢師 訃報手記 —

19 お寺散策 — 神奈川県 常泉寺 —

20 現代と宗教 — 宗教教育における現代社会へのアプローチ —

〈新企画・仏教と環境〉

22 現代の日本における仏教環境運動(一)

24 SOUSEIインターナショナル

26 賛助会員名簿

27 そうせいサロン

平成十六年度 全国曹洞宗青年会総会開催のご案内

28 青年会モザイク — 北海道第三宗務所青年会 —



COVER DESIGN 広瀬知哲

全曹青ホームページ <http://www.sousei.gr.jp/>

©そうせい2004 本誌の写真、イラストレーションおよび記事の無断転載を禁止いたします。

# 禪文化学林

## 生老病死の大海を泳ぐ

—— 私が見つめ自らが行い自分の言葉で語る ——

平成十六年三月十一日・十二日の両日に亘り、東京都港区芝の萬年山青松寺観音聖堂をメイン会場に、平成十五年度禪文化学林「生老病死の大海を泳ぐ」が開催されました。

※なお、初日・二日目に行われた討論会は、本大会のテーマにもある「自分の言葉で語る」という部分の実践行として行われたものであり、各設問に対して何らかの統一見解を導き出そうと試みたものではありません。私たちが社会からの声に向き合っていく際に、共に考える場を提供できればと企画されたものです。

また、青年僧が扮した質問者と回答者のやり取りも、それぞれの経験や現場での葛藤から吐露された個々の見解であり、全書言を代表する意見として述べられたものではありません。皆様と立場を異にする意見があるかもしれませんが、青年僧がその場で直面した問いに対する「生の声」として触れて頂ければ幸いです。

今後これらの問題を我々一人一人の課題として捉え、改めて自己を見つめ直し、自らの言葉で語れる様になれればと考えております。



3月11日

禅文化学林 1日目



今年度の禅文化学林は、仏教徒であれば誰もが自らに課していく命題である「生老病死」に改めて向き合う僧侶の生き方を模索することを主旨として開催され、会場となった青松寺観音聖堂が満員になる二七〇名を超える全国の青年僧の御参集をいただきました。

初日午後一時から始まった開会談話ではまず、一同正面の観音菩薩に向かつて三拝し、続いて戦争・交通事故・理不尽な事件・自殺などで亡くされた命のために黙祷が捧げられました。経典は『延命十句観音経』と、それを現代語で意訳したものが読まれ、現代の人にわかり易く御理解いただくための試みがなされました。

そして、山口英寿全曹會会長の挨拶（右写真参照）と、今回の禅文化学林の開催にあたり、快く会場をご提供頂いた青松寺御住職・



喜美候部宗一老師から御挨拶を頂戴しました（左写真参照）。

開会式が終わると、大本山總持寺後堂・野田大陸老師より「あなたの痛みや苦しみを私が受け止め、私にできることをいま」と題した基調講演をいただきました（一部を抜粋し本誌六〜七頁に掲載しております）。

続いての討論会「あなたならどう答えますか？」では、各問答に対して青年僧から、檀家さんに扮した質問者と、僧侶としての回答者がそれぞれ一名ずつ壇上に上がり、僧侶に関する素朴な疑問が次々と議論され、最後に講師の先生方に、それぞれの問答の回答方法を議論していただくという形式で行われました（一部を抜粋し本誌八〜九頁と十二頁に掲載しております）。



# 「あなたの痛みや苦しみを私が受け止め、私にできることをいま」

## 現代の子供たち

私は二十五、六年間、四国の五色台という海拔四百メートルの山の上で子供たちと生活をしてきた。登校拒否、あるいは校内暴力、家庭内暴力、暴走、シンナー、覚醒剤、そういった青少年に関わっていた、俗に言うところの非行少年という子供たちだ。もともと私は教育が専門でもないし、福祉が専門でもない。何百人もの子供たちと関わる度に、何も知らない私が、子供たちによっていろんな体験、経験を積ませていただけた。皆さんも立場立場で何かできることがあるのではないか。

これから私が本場に活躍を願うのは若い皆様方だ。何故ならば、今の社会の中で、修行するという実体験の場がどこにあるか。学校にしてもだんだんと、そこそそ寄宿舎生活なんかなくなっている。家庭でも徐々に、少子化でもって兄弟すら少なくなってきた。他人とどう関わっていいか学習の場がない。

人間関係がうまくいかない為に今

問題になっているのは、不登校どころか、引きこもりだ。三百万人もの、

中学校を出ても社会に出られない子供たちがいる。いや、年齢にすれば四十歳、五十歳の人もいる。彼らはこの仏教界のお檀家の中に必ずいる。そういう生きた人に働きかける、それができるのは、やはり修行して、それこそ苦しいこと、辛いことを集回の中で体験した我々ではないか。

私はこの社会の中で悩んだり苦しんだりした。そして自分の師匠との巡り合いがあつて出家をした。この世の中はまさに生老病死の世界だ。悩みを持たない人はいるはずがない。そういう中で、みんな心の拠り所を求めている。今私があるのは、檀宗の檀侶であつたからだ。「では、そういう人たちが集まれる場所が作れたら」ということで、師匠の了解を得て、本場に何もなし山の中に入った。住む建物もなかった。たまたま、お醤油屋さんの裏庭に直径が二メートルほどの大きな醤油樽が転がっていて、それを改造して住まいにした。それが出発だった。

## 喝破道場を開く

私共は児童相談所、あるいは家庭裁判所とか、いろんなところからお子さんをお預かりしていた。そうすると、国の措置費というお金が入ってくる。戸塚ヨットスクールの問題が県議会でも取り上げられて、「曹洞宗の報四恩精舎というお寺、特定の宗教団体に国の金が流れる」といふとはいかがなものか」と問題になつたそう。

そこで困つたのは行政だ。県の課長さんが宗教法人法、宗教法人規則を持ってきて、「あなたがやっていることは宗教活動ではなくて福祉活動だから、福祉法人にしてくれ」と県の方が言う。「和尚さんやお弟子さんも、職員ということになれば給料がもらえるんですよ」と。役員会を開いたが、みんな、真つ向から反対だ。「お前は金の為に魂を売るのか。福祉法人というのは、宗教的なことをしなきゃ駄目なんだ。今まで、朝五時に起きて坐禅をして、お経を挙げて、玄米を食って、そして作務をし



て、子供が変わっていったんだらう」ということで、役員会は決裂した。

それを県の方に言うと、再び来て、「じゃあ、財団法人にするか。それにすれば、国の補助はないが、好き勝手にしたらいい。その財団法人で子供を受け入れてくれ」と言う。後で分かったが、財団法人なんて簡単にできない。何億というお金の利息でもって運営していくのが財団法人だ。基金じゃなくて、危機状態だ。県に申し上げると、「いや、それはいい。活動が大事なんだ」ということで、子供たちを預かってきた。いろんなことがあつた。「一番ありがたいのは、道場にいた子供たちが、例えば結婚して、女の子であれば彼を連れて遊びに帰ってくる。どうして、彼の両親が元々番長だった彼女との結婚を許したのか」ということだ。彼女はオープンだ。喝破道場で生活したということ誇りに思ってくれている。

そのように、やはり人が育つてい



くという楽しさ、嬉しさを私は持っている。お檀家はない。しかし、この私の道場で育った子供たちがどんどん育っていつてくれて、中には経営者にもなってくれて、どんどんお金儲けをしてほしい。困った時にはお金を借りに行くから笑。」「お前、俺が面倒を見たら。百万は出さなきゃならん」。これが、人との生きを関わりの中で言えることではないか。

### 子供たちとのふれ合いの中で

そういう中で、ある女の子がいなくなると、そして一ヶ月後に遺体で見された。ちようど道場の下に滝があるのだが、彼女はその深谷で足を滑らせて、打ちどころが悪くて動けず、そのまま凍死してしまった。新聞、テレビは、それは凄惨なものだ。和尚、女の子一人が亡くなったんだぞ。どう責任を取るんだ」と何人もが言った。私はノイローゼ気味になってぼろっとしていて、松の枝が「こは首を吊るにちようどいいよ」と

呼んでいる。この時は、報道のあり方というものに疑問を感じた。県議会でも取り上げられたが、何の答めもなかった。何故ならば、法人で子供を預かっているのは日本で私のところだけだからだ。それを国は評価してくれた。厚生省児童家庭局の課長さんに呼ばれて、「和尚、こんな事故は二度と起こしては駄目だ。お前がやっていることは中央はちゃんと見ているぞ」と。そして、「こう

### 最後に—これからやりたいこと

では、三歳児までに受けた教育はずっと続くのか。そうではない。人と人との出会いだ。それは友達、先輩、男と女もあるだろう。しかし素晴らしいのは、法、師匠との出会いではないか。それが人を育てていく。後は、自分が意識して自分を変えるということではないか。

私は二十五年間、そうやって子供たちと関わってきた、やりたいことがある。さつきも触れた、引きこもりの人たちが約三百万人もいる。喝破道場での環境の中に入れることによつて、その人たちにもう一度働ける、社会に出ていける力を与えることができるのではないか。そういう意味で、禅というものを心の拠り所にしたコミュニティ、共同体を作りたい。

これからの時代、少子化、高齢化の次はどうなるか。まさに、お寺が半減する。一人っ子が結婚したら家の数が半分になるのではないか。そういう時代が目の前に来ている。そうしたら、どうして生き残っていったらいいか。まず、住職の確立だ。悟りとは何か。自分が自分になることだ。人真似ではない自分の生き方だ。自分がどうやって社会に関わるかは、自分のやり方があるはずだ。やはり修行しなければ磨けない。

生老病死の大海をみんな渡っている。辛いこと、苦しいことがある。そのことをお寺に持ってきて、「和尚、どうしたらいい」と。いろんな方が相談に来られる。それに答えるのが和尚の仕事であり、修行力だ。今私共は、禅カウンセリングというものを作りつつある。カウンセリングは、基本的には答えを出さない。「そうですね。辛いですね。苦しいですね。分かれますよ」と、いわゆる受容と共感をしていくのがカウンセリングだ。でも禅はそれだけではない。カウンセリングで心が空っぽになったときに、仏道、お釈迦さまの教え、お宗祖さまの教え、そういう大事な言葉を、その人に適った言葉を、何とかが形にしたい。

混沌としているからこそ、拠り所としての坐禅が必要だ。古来、瞑想をしなかつた偉人はいなかつた。じつと自分を見つめる時間があるかないか。大変な時代だからこそ、そういう習慣を持たなければいけないんじゃないか。

自分が今いるこの場所から何ができるか。それをまず探してみるのだ。そして、一つ一つ積み上げることでよつて、自分らしい自分になつていけるのではないか。

野田老師の活動に関しては、十八・十七頁掲載の青少年教化委員会・研修レポートも併せてご参照下さい。

討論会1

「あなたならどう答えますか？」

基調講演に続いて行われた討論会では、まず青年僧による質問と回答が行われ、それに対して講師の方々から様々な論点のコメントをいただき、紙幅の都合上、「」ここではその全てを掲載することはできませんが、詳細については主催者ホームページ「般若」(http://www.sousei.gr.jp/)に掲載予定です。

《質問一》 お坊さんと私たちでは何が違うのですか？

【回答者A】 お坊さんの修行というのは、まず一步踏み出したに過ぎない。

【質問者A】 では、一步を踏み出しただけで何の違いもないのか。

【回答者A】 まず一步を踏み出して、そして菩提寺に帰ってきて、そこからの日常全てが修行という考え方をする。その修行の仕方をどの程度決めるかは人それぞれだ。線の引き方が厳しい人がいるし、緩い人もいるし、消えちゃっている人もいる。

【宮川】 私たちは「見られて何ぼ、聞かれて何ぼ」の世界にいる。「坊さんだから」とどこかで線を引いて、そして自己規制していく。

【司会】 「見た目」は今の時代に果たして一般の人に通じる言葉か。

【野田】 形を身につけるだけならモノマネだ。坊さんの格好をしなくてもあれは坊さんだ」と言われるような生き方が必要じゃないか。

【宮川】 (例えば、釣りの好きな坊さんがあるとする)釣りの好きな坊さんを規制することはできない。でも、少なくとも好んでそれを遊びにしちやいかん。

【石川】 自然と親しむとか、自然を感

じるとか、生物をよく知りたいとか、そういうような目的でしている方もいる。ただ殺すだけの釣り、自分の欲望を満たすだけの釣りではやめるべきだ。

【司会】 魚の気持ちになって考える、慈悲心を持って生きるのが我々僧侶の基本的な考え方だ。息がでなくてびくびくしているのを見て「泣きがいい」と言うのはおかしい。

【宮川】 釣った魚が日本語で「何で俺を釣ったのか」と聞いたときに、その魚に「餌に騙されて針に引っ掛かったお前が馬鹿だよ」と言うのか。お坊さんが釣りを好んではいけないと思う。

《質問二》 もう、死ぬしかありません。自殺はいいことですか？

【回答者B】 私もそういう気持ちになったことが何度もあり、理解できるつもりでいる。しかしながら、自ら死を選ぶのはいけない。仏教には一番に不殺生戒がある。仏教徒であるならばそこに判断の基準を持ってほしい。

【野田】 「死にたいんですか。苦しかったんですね」と、まず相手を受け入れてあげる。もっと話を聞く。今のはい方の説教ではないか。

【司会】 秋田青年会では去年まで袴田

会長を中心に自殺防止に取り組んできた。秋田は全国で自殺率ナンバーワンだ。休まないで続けてもらいたい。

【宮川】 自殺をしたいという訴えがあったという事は、その人は迷っていることもあるし、聞いてほしいこともあるし、癒されたいし、相手を求めていると思う。

【野田】 「どのちの電話」が全国にあり、私もトレーニングを受けたことがあるが、そういう電話がかかったらどう対応するかも含めて、ぜひ自分のこととして考えていただきたい。

《質問三》 戦争のない世の中にする為に坊さんは何を考え何をしますか？

【回答者C】 まず、様々な偏見をなくさないといけない。

【質問者C】 その偏見をなくす為にあなたは何をしているか。

【回答者C】 例えば偏った報道番組があったりすると、「そういう偏向報道は差し控えてください」といってメールを打つ、電話をするぐらいのことはやる。

【司会】 キリスト教の観点から戦争を否定するのはどう説いているか。

【神文交介】 宗教戦争についてイエスの言葉、あるいは新約聖書にそういうことがあるかと言ったら、ない。ただし、旧約聖書には常にイスラエルの民と他の民が戦争するということが書いてあって、神の名の下に戦争をやっているから、そういう土壌はある。

偏見をなくすということは難しいこととで、それぞれの立場、文化圏、生活



講師・パネラー紹介

《敬称略》



野田大燈

昭和二十一年生まれ 香川県報四恩精舎住職  
大本山總持寺後進  
瑞應寺専門僧堂安僧  
昭和五十九年財団法人「喝破道場」設立理事長に就任  
平成六年漬漬陣青見短期治療施設「若竹学園」開設 副院長に就任  
現在 香川県護身道連名理事長  
国際スポーツチャンバラ協会四国連協協理  
会長など



宮川敬學

昭和十六年生まれ 鳥取県大徳寺住職  
大本山永平寺安僧  
駒澤大学卒  
平成五年赤塚会役員  
平成十一年曹洞宗赤務庁人事部長  
平成十四年曹洞宗赤務庁教化部長





「國、歴史的な文脈の中で生きている人間が、いろんな利害関係に遭ってぶつかっている。」

あと、キリスト教では、基本的には状況倫理という言い方をする。その人間がその状況をどう判断して、道筋を考えて、自分としてどう立場を明らかにしていくか、その人間の責任としてやっつけていくべきものだ。仏教者においてもそれは同じだ。仏教一般で今の世の中のいろんなものを説き起さず、解釈することは無理なことだ。

「心の平和が世界の平和に通じる」とか、そういう議論が出て来なくてよかつた。宗教と戦争という問題をやる」とそういうものに短絡しがち。

《質問四》 交通事故で子供を失った悲しみや怒りから救われぬ私を救って下さい。

【回答者D】 あなたの悲しみは十分に理解できます。また、同じように彼(加害者)もこれから一人の人間の命を絶ったという事実を背負って生きてい

かなければならないでしょう。そのことを理解してあげる気持ちを持つてみては如何でしょうか。(加害者が誤って事故を起こしてしまつた場合を想定しての発言)

【質問者D】 息子に過失がない以上、どうして彼を許すことができるのか。

【回答者D】 徐々にでもいいから、あなたから発信し続けるその怒り、悲しみを少しでも違った方向に向ける努力から始めてみてはどうでしょうか。

【石川】 まず話を聞こう、苦しみを少しでも分かろうという姿勢が回答者にある方が重要ではないか。

【野田】 それぞれの背景というか、生き方というか、持つて生まれたものもある。それを納得するには時間が必要。そこで説法が必要じゃないか。

【碑文谷】 そういうときに一番役に立たないのが説法だ。

悲しみとか怒りとかの人間に対して「時間が解決する」という言葉は反感を与える。過ぎたことを忘れるということとは、その命に意味がなかつたということなんだから。亡くなった人間の命がいかに大切だったかということ、を、きちんと受け止めてあげるということに中心を置くべき。

【石川】 「癒し」とは何か。私たちは、目の前の苦しみから逃げよう忘れようとするあまり一歩間違えると快樂にすがつてしまう。「生死を明らかにする」とは、つらく苦しい現実のありのままの姿、その原因をしつかりと明らかにすることだ。

【野田】 「悲しかったら泣いていい」と言つてそれが癒しにつながる。しかし我々はそうじゃなくて、辛いことがあつても振り回されれない。それが我々

と一般の人の違いではないか。だから命という考え方は非常に深い。死に對して受け止め方が個々によつて違う。

【碑文谷】 死別の悲嘆を修行によつて抑えることがいいことだとは思わない。死の事実を曖昧にするというのはどんな場合でも駄目だ。それは遺族にとつて本當に苦しいこと。それをこちからは横から支えるしかない。死別の悲嘆は人間の心の基本的なところを揺るがすもので、僧侶もきちんと自分にもあることだと了解していることが正しいことじゃないか。

【石川】 相手に対する共感というのは、こつちの人情を切つてから行かないといけない。大変で、我慢しなきゃいけないところがあつて、その我慢を人に見せちゃいけない。一番大事なのは、お坊さんの覚悟を早く決めることだ。

【司会】 説法が無駄だなんていうのはおかしいな考えだ。お釈迦さまは死ぬまで説法の旅を続けた。そこに痛みを持つた人がいると自覚して、杖棒であつても、お通夜、お葬式であつても、説法をする。話をする。あるいは聞いてあげる。八万四千の法門だから手法はたくさんあるだろう。

(文中、敬称略)



碑文谷 創

一九四九年生まれ 葬送ジャーナリスト  
東京神学大学大学院修士課程中退 出版社勤務の後、一九九〇年度表現文化社(当時、表現社)設立 雑誌「SOGI」編集長  
死や葬送関係に関する評論活動をテレビ、新聞、雑誌等で展開  
著書「自分らしい葬儀」(小学館一九九八年)、「死に方を忘れた日本人」(大東出版二〇〇三年)



石川 光亨

一九五五年生まれ 千葉県広徳寺住職  
大本山徳持寺安居  
曹洞宗特派教師 曹洞宗教化資料作成委員会委員 元曹洞宗赤松院奉行「ちんすくろ」編集委員 元曹洞宗研究員 各宗教所現職研修講師



野田 直哉

一九五八年生まれ 福井県墨江寺住職  
早稲田大学第一文学部卒  
大本山永平寺安居  
元・大本山永平寺人権擁護推進室 兼国際部主事  
高年山曹松寺獅子吼林サンガ主任  
著書「積る禅」(朝日新聞社)「日常生活の中の禅」(講談社選書メチエ)「問いから始まる仏教」(修成出版社)

○ 司 会 阿部 光裕

3月12日

# — 模 擬 葬 儀 風 景 — 禅文化学林 2 日 目



## 葬儀のモデルケースについて

『南無大慈大悲 哀愍授戒』

授戒の儀の結句ともいえるべきこの文言の意味が何かを考えたことはあるでしょうか。三〇周年記念事業実行委員会では、この文言を、『お釈迦さまの大きな懐に抱かれ、汝はいま安らかな世界に入る』と、意訳しました。

亡き人よ安らかに眠れという想いは、通常の葬儀において参列された人の共通の想いでしょう。ですから、私たちは没後にせよ亡き人を仏弟子に迎え、大安心の世界に進んでいただくために「授戒」をいたします。そして、仏弟子の誕生式を終えた後、「南無大慈」と唱えるのですから、この意訳はそれほど間違つたものではないと思つていきます。

本山や各地で修行される「お授戒」においては、「説戒」や「説教」、「直壇口宣」を通じて授戒の何たるかを時間を掛け戒弟に説き示します。また、紅幕で道場をつくり暗闇の中を歩かせたり、「小罪無量」と書かれた札を燃やしたりしてみせ、演出により人々に授戒の真意を理解していただこうとします。しかし、同じ「授戒」でありながら、そうした努力を私たちは通常の葬儀ではいたしません。せいぜい、通夜説教ぐらいのものでしよう。また、説教をいたしますが、それも聞いているだけでは到底意味の分からないものばかりです。いまは亡き遠藤誠という弁士が「お経はバックグラウンドミュージックだ」と言つて講演会や著書でそれを批判していましたが、私たち自身もど

こかでそう感じてはいないでしょうか。確かに、葬儀や法事においての読経は、それだけで有難いものだと感じる檀信徒もいるでしょうし、読み方に自信のある僧侶はそれで十分満足させていると思つていられるでしょう。しかし、例えば「大慈大悲」は観音信仰そのものお経ですが、何故それを葬儀などで唱えるのかといえ、人々に「慈悲」で自分の心を満たしていただくため、そのための努力が「お経を讀む」という行為だけでいいのかと思つたのです。そうした葬儀や法事のあり方を改めて考えてみたいという思いから、実行委員会では、参列者になるべく分かり易い葬儀のモデルケースを企画いたしました。

青松寺の堂頭様に、白衣で棺桶に実際に入つていただき、遺影を飾り、一般の方が亡くなったという設定でお戒名を「明峰和心」とつけさせていただきました。導師は、かつて劇団に所属し俳優をしていたことでもある埼玉県の青年会会員・西村宗洋師にお願ひし、山口会長に弔辞を讀んでいただきました。司会は委員の米澤が、私と法務委員会の委員長清水師が葬儀屋に扮しました。維那は委員の高嶋でした。

授戒の儀と引導法語は、現代文で作成することに挑戦してみました（十一頁下段に法語掲載）。おそらく理想にはほど遠いものではあったでしょうが、参加者が葬儀について考える場となつたのではないかと思つていきます。

（三〇周年記念事業実行委員会）

阿部 光裕記

(青松寺・禅文化学林時使用) 和文・引導法語(例)

水は山にあり、川にあり、海にあり、空にあり、そして私にある。  
 濁いた喉をコップ一杯の水が潤す時、天地自然と私は一つになり、  
 喜びは生まれる。

ここに「○○○○」と「仏弟子 明峰和親居士」  
 ほとけの国への旅立ちに言葉を添えん。

暖かな春の日はそれだけで心が和むように、  
 いつも穏やかに人に和をもたらし、情愛を深くして妻を支え、子を養う。  
 その因縁は消えることなく、後の世にも春風をめぐらし、  
 旧縁に光をもたらすものなり。

それ故に、ほとけの名として「明峰和親」と授けたり。

思えば、人生は思うに任せぬことの繰り返しであり、  
 たとえば、老いていくは苦なり、病にあうも苦なり。  
 けれども、それも真実の人の姿なりて、避けて通れぬ道なれば、  
 努めて辞かに受け止めるものなり。

いまより二千五百年の昔、お釈迦様も老いて病の床に伏せ、  
 まさに涅槃に入らんとする時、集まりし人々の涙にこたえて曰く、  
 諸人よ、私がさうであるように、世の中の全てのものは移ろいやすい。  
 なれば一心に私の教えた道を歩むがよい。  
 そして自らが釈迦となるべしと。

明峰和親居士

いま、仏弟子となって生き死(いきしに)の世界を脱して、  
 本来の自由な世界に向かう時、山僧からの饒(はなむけ)の言葉を受けて、  
 その愛を広げん。

露

元これ山に住める人 山中の話を愛す

葬儀モデルケース

― 式次第 ―

- ・ 故人入場
- ・ 導師入場
- ・ 開式の辞 司会
- ・ 授戒の儀
- ・ 読経
- ・ 甲辞・甲奠
- ご友人 山口英寿氏
- ・ 引導法語
- ・ 山頭念誦
- ・ 読経 般若心経
- ・ 回向
- ・ 故人よりのメッセージ
- 代読ご友人 竹田伸次氏
- ・ 閉会の辞 司会



# 「葬儀のモデルケースを通じて」

【質問5】 お戒名はいいのですか、それとも葬儀はしていただけないですか、

【回答者E】 当寺は、お戒名をお授けして「葬儀をするので、お別れの式ならなくても葬儀というご縁を断つてはできません。」

【質問者E】 戒名の種類によって別にお金が掛かるのは事実でしょうか。



【回答者E】 ただでも、居士等あるいは随分をお付けしたこともあります。

【質問者E】 ただでもいいのですか。

【回答者E】 そういふふうに言ってしまうのはあなたもお支払いにならないので、お寺の経営が成り立たなくなってしまう（会場・笑）。

【野田】 お檀家さんがどれだけお寺に貢献したか、ということを決断し決めるのは任職だ。それまでのお檀家と任職さんの人間関係が出来てない。だからという問題が出てくる。

【碑文谷】 「全て信頼してお任せします」というような関係は、現実問題としては少ない。相場を知りたいという気持ちがある。

【野田】 私の知っているお寺では、戒名料は任職には入ってこない。全て檀信徒の護持会の会計に入る。だから、お檀家さんがお寺を護持してるといふ意識が強い。

【司会】 檀信徒が会計しているお寺は実際にあって、お坊さんは中身には絶対手をつけない。

事務職がいて領収証を切って出す。これが評判いい。

【碑文谷】 お寺は僧侶のものではなく、檀家のものだという意識を、僧侶自身が持つことが必要なんじゃないか。

【質問6】 お経の意味を本当に解って読んでいますか？ 解らずに読んでいるとしたら、それで「成仏できる」とか、「供養する」というのはどういうことなのか？

【回答者E】 大切なのは心だ。

【野田】 これは本当に仏教徒としての怠慢だ。分かりますとすると、慈悲行ではないか。それが分からないで、「分からないうつが悪い」がまだまだ尾を引いている。どんな人が聞いても、その理解度に応じて説明が出来なさいいけない。その努力をしないと仏教はもつと衰退していく。

【碑文谷】 僧侶が普通の人に語りかける言葉を持つ必要がある。自分たちの言葉で相手に伝えるということがやれていかないと、一種の音楽か何かと理解されかねない。

【野田】 時代は変わっている。葬儀等もいろいろの意味で変わっている。それを覚えていくのは若い人だ。覚えていく努力を続けていければ、檀家さんが我々の方へ向いてくれる。

【碑文谷】 一般の意識から言えば、ますます、お坊さんを呼ぶ必然性というものを感ぜない世代になってきている。だからお寺の側が相当変わらないと、寺離れは急速に進んでいく。そのくらい深刻だ。

(文中、敬称略)



二日目の討論会が終わると、ただちに閉会式に入りました。閉会式では、今回の禅文化学林に二日間ともご臨席を賜り、また随所で我々青年僧に対して力強いご指導を行っていただいた野田大燈老師より大会総括がなされました。

野田老師は、今後の僧侶や寺院が向き合っていく様々な問題に対し、若い青年僧は失敗や批判を恐れず堂々と挑戦していくべきであることを改めて示され、その失敗が次のステップにつながっていくことと、必ず自分自身に良い経験として帰ってくることを、老師御自身の経験を踏まえてお話し下さいました。また、今回の様々な議論をただ聞いただけでなく、自分自身で実践し敷衍して社会に還元すべきであると締め括られました。

最後に、和田光史大会委員長より挨拶があり、宮守正全寺育副会長より閉会の辞が宣言され、全国から約二七〇人以上が集まって行われた二日間の熱い議論は熱気に包まれたまま終了となりました。



禅文化学林参加者一同記念撮影 ～観音聖堂前にて～

## 禅文化学林から地方大会へ

三〇周年記念事業 実行委員長 阿部 光裕

さきに行われた禅文化学林のメイン会場が青松寺にある観音聖堂というホールであったことから、開会詞経では『延命十句観音経』を唱えることになり、それを意識することにしました。まるでフォークソングの歌詞のようで稚拙なものに感じられるという方もいるとは思いますが、案外これは正確に意識できたのではないかと私は思っています。観音さまは慈悲深いほとけさまで、私たちの心の中にいるものだとよく説いたりします。まさに仏教は自分の心の中の善なるものをいかに自らの生活に生かしていくかを示したもので、法戦式でよく使われる禪問答にも「いかなるか是れ仏教の大意」「諸悪莫作、衆善奉行」とあります。『大悲心陀羅尼』は、別称『千手千眼陀羅尼』と言いますが、千の手に千の眼がついて、自在にさまざまな人の気持ちに手を差し

伸べて親であげることのできる慈悲を象徴したほとけさまが観音さまで、「観自在菩薩」と言われる所以でしょう。ですから自分の中の「観自在」つまり「人々の気持ちになつて、痛みや喜びを感じてあげること」のことができることが仏教者の原点なのだと思います。それは、生老病死の大海を泳ぐ人々に寄り添い、あるいは向き合つて生きていく私たち価値のものとも大切なことで、それが自分の中の善なるものを導き出し生きていく仏教者の姿なのでしょう。

### 延命十句観音経

観世音

南無仏

与仏有因

与仏有縁

仏法僧縁

常樂我淨

朝年觀世音

暮念觀世音

念念從心起

念念不離心

いつでもあなたはそばにいて、わたしのことがよくわかりわたしの痛みを自分の痛みに受けて生きていく

もし、あなたを信じて生きていくなら

こんなわたしでもあなたのようになれますか

わたしは自分のことをたぶん知らずに生きて、あなたにはまことにわたしにわたしのことを知っている

もし、あなたを信じて生きていくなら

わたしは確かな自分に出会えますか

あなたはいつも愛をわたしに

まっすぐわたしを見つめて

だからわたしはしあわせで

ついていこうと決めたのです

目を覚めて、あなたを感じ

うれしく

眠りにつくまで

こうしてわたしは、どんなにつらい日も

わたしのあなたを感じ

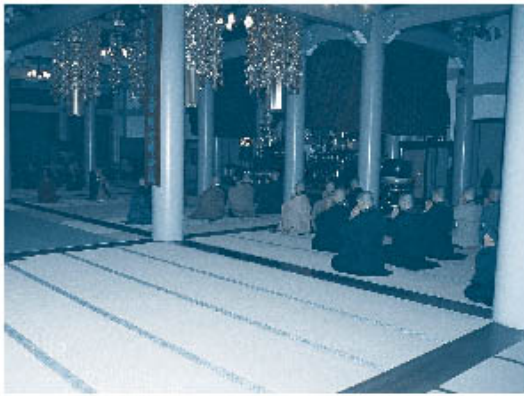
生きていけると信じます

生きていけると信じます

また、曹洞宗の命脈である坐禅にも同じことが言えると思います。

先日、總持寺の副貫首齊藤老師が戒師をお勤めになられたお授戒に随喜させていただいた折、ご垂示の中で「坐禅は、菩提心(自未得度先度他の心)より行じるもの」と示されておられました。それは、四苦八苦の娑婆世界の中で苦しみあえぐ人々への慈悲の心で自分を満たして坐に徹することなのでしょう。そうした意味において、私たちは人々の苦悩を内包して坐禅をしているのかを常に自らに問いかけていくことが大事なことなのだと思います。

「人々の苦悩に寄り添い生きる」というテーマを掲げて記念事業を展開していくにあたり、私も自分自身が人々の苦悩に寄り添った寺院活動をしなければいけないと思ひ、茨城県の青年会で数年前から行っている交通死亡事故の犠牲者を慰霊するための行脚を企画し先日終えました。地元のロータリークラブを巻き込み、遺族や友人総勢



青年会会員も晴天・朝課に随喜



三〇周年記念事業 実行委員長 阿部光裕師

一四〇人で二五キロの道程を死亡事故現場で黙祷を捧げながら歩きました。「いのちをみつめる一日行脚」と題して行われたその行事には事故で友人を失った二十歳ぐらいの若者も三〇人ぐらい参加し、遺族もそれぞれに様々な想いを胸に抱きながら一日行脚いたしました。その後は、地元福島県の青年会にもご協力いただき、新潟の青年会で行っている会員のお寺から集めた残ローソクをリサイクルして、知的障害者施設にて再生させたローソク二〇〇本に灯を点した「祈りと誓いの式」を宗教色を抜いた形で行いました。涙に染まった会場に揺れるローソクの炎が、参加した人々や事故で亡くなった人のいのちのように見えたのは私だけではなかったと思います。必ずしも遺族や友人の悲しみや苦しみで癒えたとは思っていませんが、足の痛みで耐え難く歩いたことで、少なくともいのちを見つめる一日になったと思っております。

今年の十月から、三〇周年記念事業が全国各地で執り行われますが、是非どの大会においても、人々の苦悩に寄り添って生きるべく自らが行い自分の言葉で語るといふテーマを中心に据え

そうせいインフォ掲示板  
今後開催予定の  
各地管区大会

○第二十二回曹洞宗北海道青年会紋別大会

別大会  
大会 長 大嶽 俊行

第三宗務所第三教区青年会会長  
実行委員長 北川 智徳

第三宗務所第五教区青年会会長  
平成十六年六月三、四日 紋別市

紋別オホーツクパレス、紋別文化会館にて開催

・記念講演・相田一人氏(相田みつお記念館館長)

○第二十八回東海管区曹洞宗青年会小大会・三重県曹洞宗青年会四〇周年記念大会

東海管区曹洞宗青年会会長  
舟橋 宗広

三重県曹洞宗青年会会長  
種井 秀敏

平成十六年六月十三、十四日 津市 三重県総合文化センター(中ホール)

・大会テーマ『不念』(導として畏るるにたらず)

・記念講演 板橋真宗 禪師

・記念公演 劇団 すわらじ劇團

た企画をしていただければと切に願います。また、当委員会でお手伝いできることは何でもさせていただきますので、打合せの段階から各地へ足を運ばせていただき仲間に入れていただきたいと思います。

大本山永平寺御用  
大本山總持寺御用  
落雁諸江屋  
今秋の紅葉は、大本山永平寺御用、大本山總持寺御用、落雁諸江屋、お楽しみください。TEL:052-331-3080

修復工事から新築工事まで  
あらゆる対震(=対地震)工事に  
最新技術\*で対応しております。  
日本古来の伝統の技を伝承する、  
魚津の設計と施工。

\*大本山總持寺香櫃台監修改修工事で採用させて頂きました。

神社・仏閣専門建築  
株式会社 魚津社寺工務店  
〒454-0004 名古屋市中西区西日置二丁目12番20号  
TEL(052)331-3080・0854 FAX(052)332-3540

# 全曹青情報局

## 委員会紹介

### 青少年教化委員会

青少年教化委員会では、青少年と直に向き合った実践活動を目指し、青年の求めるものに対して、具体的かつ効果的な処方箋を模索し、自由な発想をベースに教化材料を提供していく事を目的に活動しております。

そこで今年度は、大本山總持寺後堂・野田大燈老師主宰の「報四恩精舎」「鳴破道場」「四恩の里」を訪問活動し、青少年とのキャッチボールの中で発見したものを今後の活動に繋げていく予定であります。

定であります。

委員会活動は現在まで四回開催しており、青少年教化に関する意見交換を活発に行っております。

なお、前期から引き継いだ伝道句集「あなたに向かつて」の販売・普及活動も、お陰を持ちまして完売を果たし、無事終了をさせて頂きました。皆様のご支援と協力に心より御礼申し上げます。

宗務庁における委員会活動の様子



大本山總持寺での研修風景



## 各委員コメント



◆副委員長  
佐藤 泰元  
(愛知・東三河曹)

「残すところ一年余り、宗侶として青少年教化の一助となる活動を行う所存であります。」



◆委員長  
阿部 正機  
(新潟曹)

「青少年の素直でやさしい表情に触れると、無条件で嬉しくなり、心を平安にしてくれる。何か恩返しをしなくては。」



宇野 弘倫  
(四国曹)

「宗門青年僧侶の立場で、問題をかかえた青少年をサポートしていきたいです。」



千葉 坦自  
(宮城曹)

「青少年への教化活動を通して、社会に何らかの還元をしていければと考えています。微力ながら進める所存です。」



大橋 裕幸  
(埼玉・第一曹)

「初出向のため何も分かりませんが、委員長をはじめ諸先輩方のご指導の下、任務を全うできるように頑張ります。」



諸岡 幹哉  
(京都曹)

「あつという間の一年でした。残りの一年、委員長の足を引っ張らないように付いていきます。」

法衣・袈裟  
再生本舗

庭が元らせる。リフォーム時代

開店3周年記念 感謝セール



- 立・エ山帽子洗い仕立直し
- 金襴袈裟洗い
- 刺繍袈裟洗い
- 甲中台替
- 袈裟紐替
- 袈裟裏地替
- 座具裏替
- 法衣丈直し
- 法衣胴裏文換
- 掛衿替・色直し
- 法衣色抜け直し
- シミ抜丸洗い

法衣生洗い

※少々のほころびは、サービス修理します。

- 大 衣 2,140円
  - 改良版 5,580円
  - 七条袈裟 5,580円
- ※袖直し・仕立直し  
※当店の洗いは、法衣専門の清洗いです。



特典

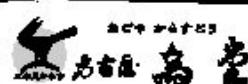
①3年間 洗い無料(御国でも可)

当店定額料金7,140円(税別)

②3年間 修理無料(大きな修理は別)

※法衣・袈裟・御注文(正絹又は本麻)御注文

※期間 H.16年4月15日～H.16年12月30日までの受注



法衣・仏具・贈答品  
TEL:052-720-0800  
名古屋市中區藤上二丁目1番2号  
TEL:052(42)3000 FAX:052(42)6445  
地下鉄東山線藤上駅 徒歩5分

# 青少年教化の原点を求めて

青少年教化委員長 阿部 正機

瀬戸内海国立公園「五色台」、その大自然に抱かれるように宗教法人「報四恩精舎」、財団法人「鳴破道場」、社会福祉法人「四恩の里」が息吹を発し、佇んでいた。

この三施設は異なった法人格を有し、それぞれ違った役割を担っているが、各施設の理事長であり住職でもある野田大燈老師の「生きた人間の苦しみを救うことが仏教の教えであり、人々の幸せを自分の幸せに先んじて支援してゆく事が大乘仏教の正眼である」という信念のもと運営されている。

今回、青少年教化委員会で訪問する機会に恵まれ、委員会活動目的である「青少年と直に向き合った活動の中で、青少年は何を求め、青年素伯は何を求められ、何を発信できるのかを発見する」を胸に訪問をした。

野田老師に直接お話を伺ったとき、早速鳴破道

野田老師ご夫妻を囲んで



場修行者と共に拝参詣経を勤め、その後野田老師よりご挨拶を賜り、広大な施設をご案内いただいた。

まず驚いたことは、修行と自立支援のために、施設の中にふんだんにアイデアが盛り込まれていることだった。

洗面所には水道の蛇口が一つしかない、そこから貯めた器より必要な分だけのお水をいただき使うという、まさに道元禪師の「杓底の一残水、流れを汲む千徳の人」の精神に倣う、生命（いのち）の大切さを日々の実践に活かす姿勢がそこにはあった。

そしてこの地では、サヌカイトという石が採掘されるため、それを加工し楽器やテーブル、食器を制作する作業を取り入れ、いずれは石工房を建てる予定であると伺った。また自分でちで畑を開墾し、食料自給率は約六〇パーセントにもものぼるといふ。さらにはハーブ園にて栽培したハーブをアロマテラピーによる心の癒しとして取り入れ、喫茶店を経営しながら人のコミュニケーションをとる訓練をしている。

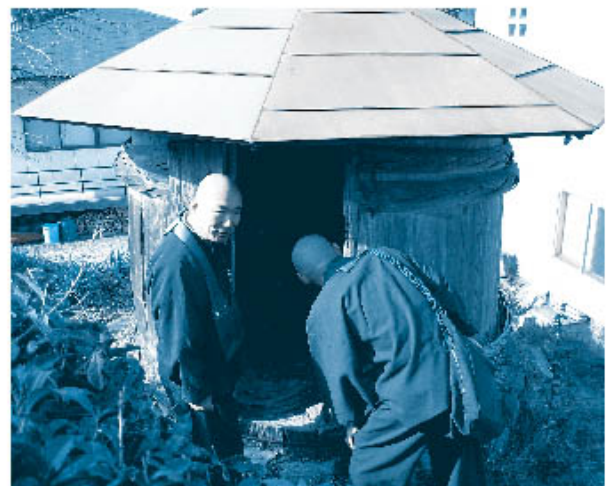
そして庄巻は、野田老師の出発点である直径二メートル・高さ二メートル五〇センチの醤油樽が境内に数個置かれていること。これは醤油樽を居住スペースとし、ここで二年もの出家生活

を行った時のものである。

一通り見学を終えると、人との垣根を作らない気さくで心温かい野田老師の奥様が、天ぷら付きの本場讃岐うどんを我々に振舞ってくれた。この奥様の存在こそが、野田老師がご本山に出仕されている間でも施設の輝きを失わせない原動力となっているのである。皆の笑顔と大自然をおかずとし、一同この時点で充分満足をしてしまったようだった。

お昼休みには、冬場滝の水がそのまま凍るといふ「日みずの滝」にまで散策に出かけた。ご案内していただいた鳴破道場修行者は、高校を中退しここに上山、二月いっぱい修行を努め高校に復学するとのこと。道中話を聞くと「世間で言う悪いことを一通りして学校にいらねなくなり、親に言われるがままにここに入りました。ここでは自分自身と向き合えたことが最高の財産です。今でも一番辛いことは朝の早起きですがね」と、時おり照れ笑いを浮かべながら過去の自分を鳴破してくれました。

お昼からは「四恩の里」内、情緒障者短期治療施設「若竹学園」の園児のみなさん（現在小学校三年から中学三年の二十四名）との交流を得た。初めに施設見学をし、その後園児のみなさんによる和太鼓を披露してもらった。みんなの素直な心が表現力を高め、互いに自分の役割を果たしながら



野田老師の出発点「醤油樽」

隣の太鼓を見事に引き出している。独奏の時一人の子がバチを飛ばしてしまい、そのバチを拾いに行く者と、サツと代わりのバチを差し出す隣の者とがいて、みんなの心が一つになっていることを実感できた瞬間でもあった。

そしていよいよ、楽しみにしていたスポーツチャンバラの時間。着目すべき点は「自己審判（打たれた時は素直に自己申告すること）」といふことで、自らが自らのために審判をすることだった。打たれたこと、負けたことを素直に認め合い、いさぎよく、さわやかに相手を認め合う、そこにいたわりの心、他を認めるゆとり、そこに生まれるのだという。またルールは簡単で、エアのソフト剣なので思い切つてチャンバラができ、剣の短長でハンデもつけられ誰と



若竹学園園児による和太鼓披露



スポーツチャンバラ対決の様相

でも交わることが出来る。私もついつい本気になってしまったが、ブレイの後の爽快感はみな共通のものがあり、身心のリフレッシュにも繋がるかと改めて実感をした。

おわって息付く暇もなく坐禅堂の脇間に案内され、そこで園児より抹茶を点てていただいた。勿論これも学園カリキュラムに組み込まれている授業であり、とても見事なお手前で委員一同みな心がホッと癒された。一挙手一投足に園児のみなさんの真心が行き届いていたような気がする。

この子ども達の一体どこが学校などで不適応をおこした少年少女なのか不思議に思えてきた。

日程も終わりに近づき、野田老師を囲んで諸々の活動を通しての感想、委員会としての今後の取り組みなどについて意見交換をし、最後に記念写真を

撮り施設を後にした。

最後に、この訪問を通して私なりに気付いた点などを所見として述べてみたい。

今回の活動における資料として、野田老師に子ども達の姿をビデオに収めることの許可をお願いしたところ「わざわざ許可を取る必要はないよ。大いに撮って下さい。それともどこにいる子ども達は撮影に許可が要する程の特別な子ども達なのですか」とのお答えをいただいた。

相手が障害者なのではない。障害者をつくっているのは自分自身の心であり、その心そのものが障害物で、その心さえなければ自分も相手も同じフィールドにいるということなのである。

日常の営みの中で一言一喜することと、歯

を磨き、決まった時間に食事をして、といった規則正しい生活を淡々とこなすことで、自分自身がどのような状況になるうとも、決して自分自身を見失うようなことはないものと思われる。

むしろ生き方を強くするのは、普段の何気ない作法を確実にこなすことにあるのではなからうか。道元禪師が事細かに日常生活における規範についてお示しになることの意味もそこにある様な気がする。

自分自身を変えることに必死になるよりも、今の自分自身を認め、この自分が大勢の人たちを支え、多くの喜びを与えていることに自信を持ち、存在価値を再認識することが大切なのであるうと感じる。そして世の中で本当に寂しいことは、物事を失敗することではなく、諦めてしまうことなのではなからうか。要は何事に対しても決して諦めないことである。

青少年は何を求めているのか。私は自分自身を認め、認められることを望んでいるのだと思う。

青年宗侶は何を発信できるのか。あなたには必要とされているのだよ、と伝えてゆくことなのではないだろうか。

皆それぞれがその立場において自分自身を好きになり、素直に生きていくことが「共に生かされ、生き、生かす」ことであると感じた。

最後に、この訪問に関わっていただいた全ての皆様に心より感謝の意を申し上げます。ありがとうございました。

寺院用仏具・仏壇・製造販売  
曹洞宗梅花流法具販売指定店



ほう 光  
**放 光**

本店・工場	〒940-0825	新潟県長岡市高畑617番地	☎(0258)33-5644
新潟店	〒950-0941	新潟市女池2丁目2-11	☎(025)280-1550
川越店	〒310-0036	川越市小仙波2丁目20-1	☎(049)227-7666
高崎営業所	〒370-0046	群馬県高崎市江木町1179-2	☎(027)324-3721
長野営業所	〒380-0911	長野市稲葉1980-1	☎(026)222-3811

第十二期全曹青副会長

山田勇賢師遷化のご訃報に接し、

衷心よりお悔やみ申し上げます

— 第十五期 全国曹洞宗青年会 —

〈緊急訃報手記〉

## 山田勇賢師の遷化を悼む

第十二期全曹青会長 寿松木 宏毅

去る一月二十八日午後四時三十九分、第十二期全曹青副会長・山田勇賢師（静岡県藤枝市盤脚院住職）が遷化されました。

山田師は昨年六月、新潟県への特派布教を前に咳が止まらず、検査を



在りし日の山田勇賢師

受けたところ、肺に水がたまっていくということですが入院され、その後療養生活を送っておられました。去年の十一月、お見舞いに伺った時には顔色もすくなく、検査用紙を見せながら「だいぶ長くなっています。また外泊ができません」とご家族に会えることを嬉しそうに語って下さいました。

しかし、今年正月過ぎから急に病状が悪化し、静岡県藤枝市立総合病院にて享年四十七歳という若さで遷化されました。師の笑顔と声の温もりが、いまださめやらぬ矢先の訃報でした。

二月二日の茶毘には全国から駆けつけた多くの人達が痛惜の思いでお焼香を致しました。

師は、静岡県曹洞宗第一宗務所青年会会長から全曹青評議委員に、そして平成九年には全曹青副会長を務められ、その際には全日本仏教青年会にも理事として出向されました。豊かな活動経験から出てくる師の言葉に、当時の私たち全曹青役員がどれほど刺激を受け活力を頂いた事でしょう。

「宗門が社会に開かれていくためには行動力ですよ」と語り、それは師の信念になっていたようでした。

実際、道元禪師七五〇回大遠忌には自らが先頭に立って、主題となる幕古の実践を一足先に成し遂げられました。

御本師の山田康夫老師（大遠忌事務局長）が宣揚された手治眞聖寺か



静岡第一曹青会を率いての永平寺行脚  
(左から二人目が山田師)

## 祝 曹洞宗青年会静岡大会



第20回曹青静岡大会の折

ら永平寺までの行脚を、静岡第一曹青会を率いて踏破されたのです。私たちが全曹青執行部も数日同行しましたが、その行脚は足の豆も潰れ悲壮感さえ漂うような行程でありました。しかしそうした厳しい状況にあつても、道行く人々には笑顔をやささず、会員一人一人には思いやりと気配りを忘れずに歩く師のお姿から幕古の道念そのもの学ぶ思いがしたものです。こうした師の人となり、堅固な道心は今後も多くの友人、知人の心の中でずっと生き続けてくれることと深く信じております。

山田勇賢師の安寧を心からお祈り申し上げます。なお、本葬の儀は本年六月六日の午前十時より、静岡県藤枝市盤脚院様で営まれます。

(秋田県・永泉寺副住職)

# お寺

# 散

# 策

## 清流山 常泉寺

### かながわ花の名所百選に指定された花のお寺

神奈川県大和市、小田急江ノ島線「高座渋谷駅」を下車し、案内看板にしたがって道なりに歩くと、ほのかに花の匂いが漂ってきた。その匂いに導かれるようにさらに足を進めると、そこに花のお寺・常泉寺が見えてくる。そこで圧倒されたのは、参道の両脇に咲く約二百五十本の「みつまたの花」だ。赤、白、黄のみつまたの花が咲き乱れるその景観は、この世に現れた浄土をほうふつとさせる。

#### ■花のお寺

常泉寺は「花のお寺」として県下に知られている。境内には春のみつまたや秋の白い彼岸花をはじめ、一年中四季折々の花々が咲いている。特にみつまたの花の景観は「かながわ花の名所百選」に選定され、県の観光名所としても名高い。また常泉寺のみつまたは平地で咲くみつまたとしては日本一の規模をほこるのだそう。

みつまたは、山地に栽培されるジンジョウゲ科の植物で中国が原産地だ。高さは2〜3m。たいへん良い香りがして、枝が三又状にでるのでこの名が



常泉寺の参道「花浄土への道」

つけられたという。初秋につぼみをつけ、つぼみのまま越冬し、葉は落葉する。見頃は三月中旬頃から四月上旬で、この時期はその他に「緋寒桜」「さんしゅう」「桃(てるてひめ)」「木子子」「かたくり」など、様々な花が咲き乱れる。まるで花模様のような境内には、みつまたを自当てに県外からも多くの人が訪れるという。

一方もうひとつの巨匠である彼岸花は、大変珍しいといわれる白色が約三百本、さらに赤色が数千本、境内のあちこちちらりと咲くという。白色は、赤色より少し早く咲き、彼岸花の関東三大名所の一つと言われている。彼岸花は多年草の植物で高さは30〜50cm。葉はやや厚く光沢がありやわらかい。花後に群生し翌年枯れる。彼岸花の名の由来は、秋の彼岸の頃咲くことからそう呼ばれる。別名は赤花を表す梵語で曼珠沙華ともいうそう。

この時期はその他に、秋の花「萩」「おみなえし」「われもこう」「すすき」「しゅうかいどう」などが咲き、木々は「柚子」「さくら」などが実をたくさんつける。

■これから見頃の花  
これから五月から七月にかけて見頃な花を紹介しよう。五月はやはり牡丹である。また、アマドコロ、紫蘭、ハナイカダ、紫、一初などがある。六月はあじさいが見頃である。その他はさくく、花菖蒲、口無、姫笠、九蓋草がある。七月はハスが美しい。泥中より力強く咲くこの花は、仏法興隆の象徴としてもよく喻えられる。他にも、

いつ訪れても季節の花が楽しめるように三百種を超える草花が境内地に植えられている。

なお、こうした多くの清浄なる花々がそう連想させるのだろうか、常泉寺山門にむかう70メートルの参道は「花浄土への道」と呼ばれている。

#### ■河童のお寺

常泉寺は河童のお寺としても知られている。境内には水が湧き、お寺の山号も「清流山」と水に縁のあることから、「水の神さま」として河童が祀られている。境内には大小合わせて約三百体以上の河童が参拝者を迎えてくれる。主な河童としては「かつば七福神(七福神全員が河童)」や、身長2mあり合掌して人々の幸せを祈る「河童大明神」などが祀られており、訪れた多くの人々の心を和ませてくれる。

常泉寺では、「河童あみりーくらぶ」という会があり、イベントの参加や、くらぶ新聞の発行などで、花や河童の好きな人達との交流を図っている。また、近くを流れる引地川の清掃を行なうなど、自然保護の活動にも力を入れていくそう。

#### ■花浄土へのいざない

訪れた当日は、夕方の四時だというのに多くの人々が賑わいを見せていた。中には一眼レフや業務用ビデオカメラを持参し、真剣な顔つきで撮影をしている人もいた。家族連れも多く、花をバックに記念写真を撮っている姿も見られた。

その日は神奈川県テレビの取材もきており、そんな忙しい中を青藤文雄住職は快く取材に応じてくれた。

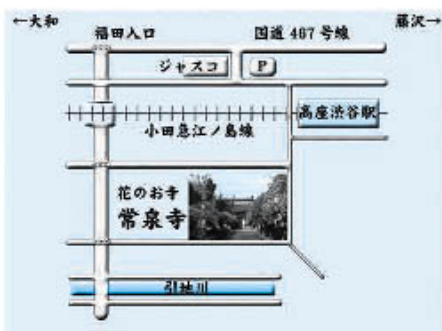
「お寺は人が集まって活きてくる」と話す住職は、地域



かつばがお出迎え

### アクセスデータ

- 住所 神奈川県大和市福田2176
- 電話 046-267-8789
- 最寄り駅 小田急江ノ島線「高座渋谷駅」下車西へ徒歩7分
- 入場時間 午前9時から午後5時まで
- 駐車場 有り(なるべく公共の交通機関をご利用下さい)



とお寺がタイアップして、町づくりの活性化につながるように日々活動しているという。そんな住職からは「常泉寺に来たら世の中の喧騒を抜け、世俗を忘れて浄土の世界を感じてほしい」とのメッセージをいただいた。

浄土とはあの世だけを指しているのだろうか。私たちが住んでいるこの世にも浄土があると考えたい。一人一人の心のあり方次第で、地獄にも極楽にもなるのでは、とそんなことを考えながら、この世に現れた「花浄土」を体感した。

常泉寺を訪れてみて、清浄なる花々に囲まれながら、花浄土の世界を感じてみたいいかがだろうか？



# 多々良学園の取り組み

多々良学園高等学校所在地

〒747 - 1292 山口県防府市大字台道3635番地

TEL 0835 - 33 - 0101 FAX 0835 - 32 - 3511

ホームページアドレス <http://www2.ocn.ne.jp/~tatarao0/>

## ①沿革

多々良学園高等学校は、明治十一年二月、曹洞宗中院山口専門学支校として、山口町瑠璃光寺に設置され、明治二十九年には、曹洞宗第十六中学校と改称された。その後明治三十五年七月、曹洞宗第四中学校として防府町に移転、明治三十九年には、宗門以外の生徒の入学を許可した。昭和二十三年四月、多々良学園高等学校と校名変更して、今日に至っている。

平成十年には、創立百二十周年を迎え、平成十五年には、従来の普通科に、新たに総合学科を新設、生徒の意欲を引き出し、学習効果を高めるために、「二期制」と「単位制」を導入した。更に平成十六年度よりは、防府市国分寺町より、同市台道（大道駅南）に



新校舎・本館と講堂

全面移転し「男女共学校」として新たな出発をすることになった。

## ②教育目標と校訓

教育目標は、次に四つを掲げている。

一、宗教、特に禅の心（真心）を根幹とした教育。

二、禅学精神による仏教的情操教育を施し、身心学道を目覚めさせ、真に正しい人間を育成する。

三、人間的教養の向上・生活内容、態度の豊潤化・健全な肉体の成長を促し、心豊かな人間を育てる。

四、進みゆく社会の歴史の中に価値を表現し、文化を創造することのできる人間を育成する。

この教育目標の原型は、第九代校長田中俊英先生によって説かれたが、創立百二十周年を契機として四つの具体的な教育目標として掲げられることになった。また、この教育目標を背景として、「静慮」「誠実」「奉仕」の三つの校訓を掲げている。

- ・「静慮」とは心を静めて、深く自己を見つめる。（落ち着いた心）
- ・「誠実」とは、真摯に、真心をもって行動する。（偽りのない心）
- ・「奉仕」とは、他のため一生懸命に尽くす。（思いやりの心）

各教室正面には、「年度の努力目標」と「校訓と五観の偈」の額が掲示されている。なお、本年度の努力目標は、「人生に夢と自信と誇りを持つよう」である。

月曜日の四時間目のロングホームルーム後、クラス担任と生徒は、全校一斉に「五観の偈」を唱和して昼食をいただき、報恩感謝の心を育むことになっている。

## ③宗教的行事

本校講堂において、月二回の礼拝行事を実践している。この礼拝行事には、二祖三仏忌も含まれている。

通常の礼拝行事は、宗歌斉唱、『般若心経』誦読、回向、生徒代表焼香、校長訓話、校歌斉唱等の内容となっている。二祖三仏忌では『修証義』を毎回各一章ごと誦読する慣わしになっている。特に、釈尊降誕会の十二月八日に因み、成道会の法要を講堂において修行し、その後全校一斉の臘八摸心会（坐禅会）を実践している。

## ④宗教の授業内容

従来は、各学年、週二時間の宗教の時間があったが、週五日制の導入によって、一・二年は各一時間、三年は各二時間の合計四時間（四単位）を設定している。

教科書としては、宗務庁発行の『仏教概論—わかりやすい仏教—』を用い、副教材として『仏教読本』の1と3を使用している。授業は、正座（正念）・坐禅によって心を落ち着けてから始まる。

なお、各学年の詳細な内容としては、一年次には教育目標、校訓、五観の偈、宗歌のところ、曹洞宗について

# 現代と宗教

## 宗教教育における 現代社会へのアプローチ



新校舎の航空写真

の学習と積習の生涯、日常の仏教行事の謂われや意義について学んでいる。

一年次は、仏教の伝播について、日本仏教の流れを概観し、特に禅宗、なかでも曹洞宗の両祖さまの生涯とその教えについて学んでいる。

三年次には、聖典の教えについて学ぶ。特に『般若心経』の教えや『修証義』の教えについて学び、後期からは『正法眼蔵随聞記』について、その意味とことばについて具体的に学習している。

総合学習では、宗教科としては「禅学実習」(週二時間・二単位)を開設して、宗内生を中心に指導している。なお、坐禅実習は月一回必ず実施するように計画している。

### ⑤ 仏教専修科

曹洞宗教育規定、高等学校仏教専修科の課程に基づいて、僧侶育成のための活動を行っている。本校の「専修科履修心得」には、

・ 三年間道友寮(学寮)に在寮のこと。

・ 原則として、在寮中に四回以上の特殊安居に参加すること。

・ 専修科が行う諸法式(年五回・各三日間)等へ参加のこと。

・ 在学中に規定の系教の単位を修得すること。

・ 卒業時に行われる、宗務庁の検定試験に合格すること。

上記の事項を修得し、その修了証を添付して、二等教師補任申請を宗務庁にすれば、二等教師の資格が与えられる。(ただし、二十歳以上)

とあり、大変厳しい心得ではある。現在、仏教専修科生として、二十一名(三年生八名・二年生七名・一年生六名)が在籍している。厳しい学寮生活ではあるが、家庭的雰囲気のもと、「乳水和尚」の心を持って、楽しい学園生活を謳歌しているようである。

宗教や仏教については、今まで歴史の授業である程度、知識としての学習をしてきている。しかし、深い教えやそのところ、また実践行について学んだものは皆無である。本校での宗教の授業は、生徒一人一人の心の中に宗教的情操教育を施すことによって、真心

の授業である程度、知識としての学習をしてきている。しかし、深い教えやそのところ、また実践行について学んだものは皆無である。本校での宗教の授業は、生徒一人一人の心の中に宗教的情操教育を施すことによって、真心



聖なる仏性を自覚めさせていることを確信して、宗教教育を行っている。他の一般高校では絶対に学ぶことのできない「宗教」の授業は、人生にとっても、自己の確立の上においても大変有意義である。

多々良学園は、これまでの実績等から「スポーツの多々良」「進学の多々良」また「駿の多々良」として、社会的評価を従来よりいただいている。その根本に宗教教育があるといっても決して過言ではない。

(文責 森江 俊孝)

宗教科担当教諭

主任

森江 俊孝

巨海 裕定

中村 孝道

# 草木仏性あり

## 僧侶による環境保全運動からのケーススタディ

十八世紀半ばに起こった産業革命以来、私達人類は技術と経済の発展により様々な恩恵を蒙ってきました。しかしその反面で、環境問題という大きなリズクをも負ったことになりました。

大量のエネルギーを必要とする機械文明を確立し、自然資源を浪費し大量の汚染物質を生成してきた結果、公害による健康被害、乱開発による国土の荒廃、野生生物種の絶滅、工業化に伴う都市化現象(精神的不安定、疲労感の蓄積、幼少時における肉体的・心理的異常との関連が推測されている)、自動車交通の発達による大気汚染・騒音・交通災害を生み出し、それらは世界経済の相互依存の深まりとともに経済システムとして発展途上国へも拡散し、

地球の再生能力を上回った地球規模での環境破壊(酸性雨、砂漠化、オゾン層の破壊、地球温暖化)までもたらしてしまいました。

そうした世界の現状に対して、国や企業のレベルではなく、個人・寺院・地域に出来ることはどのようなものがあるのでしょうか。

一言より、曹洞宗の僧籍を有し、かつアメリカの大学で教鞭を取られるダンカン・隆賢・ウイリアムス師に三回にわたり日本寺院の取り組みの例を紹介して頂きます。これらの記事に触れて頂くことにより、読者の皆様に環境問題に対する一つの視点を提供できれば幸いです。

### ◆森林保護運動

田園都市線の地下鉄に乗りして西方向に向かうと、二子玉川駅の手前から列車は地上に出はじめる。そして、左側の丘に大きな寺院が見えてくる。一九九〇年代の半ばから数年間、この寺院に沿って「草木仏性あり」と書かれた多くの掲示板が見かけられた。実はこの「草木仏性あり」

と書かれた掲示板は、当時その周辺地区の都市開発を進める日本大手の某不動産業者に向けられたものであり、メッセーシの冒頭にはこの企業名が明記されているものであった。

この大手不動産業者へのメッセーシは、「行善寺住職の渡辺俊雄によるものだった。浄土宗に属するこの寺院は一五六〇年代に今日の世田谷区に区分される丘陵に建立され、以来、

数世紀にわたり下方の景色を見渡す展望所として知られてきた。しかし突如として、大手不動産業者による大規模な住宅建設計画が持ち上がった。計画によると行善寺に隣接する一三〇から一八〇エーカーにおよぶ古来の植林は伐採され、アパートの出現により寺院からの景観も損なわれてしまう。渡辺は住宅建設反対運動を開始した。



東京の植林聖域破壊反対運動は、行善寺の檀信徒だけでなく地域の人も巻き込み、その結果一万人の署名を多くむ陳情書が世田谷区に提出された。「草木仏性あり」と掲げられたメッセーシは、区民・区役所職員・大手不動産業者の良識を問うたのである(後日、区民の意識は「世田谷の環境を守る会」としてさらに高められた)。住宅建設反対という枠をこえた渡辺の森林保存運動は、大手不動産業者に圧力をかけることに成功し、複合住宅は最低限の範囲で建設された。今日、行善寺に隣接する植林はそのすがたをどども、また境内から平地を見渡す景観もそこなわれない。

渡辺の活動は、住職・寺院・檀信

徒をふくめた日本仏教の環境問題への取り組みを示すものである。従来こうした活動は一九六〇年代から七〇年代において、改革や労働運動を提唱する地方グループないしは環境団体によって推進されてきた。一方、仏教寺院は中世から自然景観の番人的役割をはたしてきた。しかし教学（例えば、大乘仏教の「山川草木に仏性あり」という概念）と自然保護の関連が議論されるようになったのはごく最近のことである。

### ◆寺院による環境保護の嚆矢

僧侶の環境問題への取り組みを一九七〇年代後半から一九八〇年代初頭にかけて提示したのは、曹洞宗泉竜寺住職の首原昭英である。泉竜寺は四百年間、近所の森林地帯を保護してきた。そのため首原は新たな開発計画によって森林が伐採される話を聞き愕然とした。しかし泉竜寺住職の責任として、個人と寺院によって所有される森林地帯の保護を決意した。何世代にも及ぶ歴代の住職が森林を保護してきた事実が、首原を勇気づけ導きを与えたのである。

一九八一年から翌年の間、首原は寺院と一緒に泉竜寺檀信徒と仏教婦人会に「みどりのまぢつくり」が必要であることを説いた。理解を示した婦人会は地域人口（七千八百人）の一〇パーセントに当たる人々から開発中止の署名を集め、首原の

活動は左翼運動家から保守派の地域会合会員にいたるまで幅広い支持を得る事となった。

この結果開発計画は極度に制限され、二万ヘクタールの森林と境内は東京都が一部の個人所有地を買収した。その後、緑地保全地区に指定された。今日、この地域の公共への開放は自然の損害を最小限にとどめるという理由で、月一回に制限されている（環境保護区の規制は公園と異なり厳しい）。開放日にはおおよそ百人から百三十人の観光客が訪れ、

自然を満喫し森林生態学を学んでいる。もつとも八月は泉竜寺の大施食会と重なるため多くの人々が緑地保全地区に足を運んでいる。

### ◆ソーラーシステムの導入

泉竜寺の環境問題への取り組みは、寺院を生態系と関連づける運動として更に発展した。日本の仏教寺院の特徴として、本尊を安置する本堂は大きな屋根瓦で覆われている。首原はこの広大な空間に注目し、ソーラーシステムをもちこむことで

寺院の光熱エネルギーの自活化を考えた。従来、仏教は人間と自然の調和を説いてきたが、首原は近代以降その関係が崩壊しつつあることに危惧をおぼえていたからである。

しかし首原のアイデアが実際の寺院運営に適用されるまでには多くの年数を要した。そして二〇〇〇年に東京の西方で開催された四〇〇ヶ寺からなる曹洞宗の地域寺院会議で、ソーラーパネル設置に向けての具体的な計画が示された。

泉竜寺の「庫裡」の屋根に設置されたソーラーパネルは、境内の全建物の光熱を供給することに成功した。また、余剰電力は東京電力と泉竜寺の間で売買さ

れることになった。前者は売却された余剰電力を昼間の繁忙期に使用し、後者は光熱供給が不足する夜間と曇りの日に余剰電力を安値で買い戻すのである。この関係によって環境破壊に歯止めがかかる一方、寺院の光熱費用は下がり同時に電力会社の収入が増える。

現在泉竜寺は、本堂の屋根瓦にソーラーシステムを導入するため、大成建設と共に新たな建物の設計に着手している。ソーラーシステムを本堂に導入することは多くの住職や檀信徒が懸念するように、伝統的な本堂の外観を変えることとなる。曹洞宗が約一万五千ヶ寺から組織されていることを考えると、新たな本堂設計という首原のチャレンジは宗派を超えた日本仏教寺院全体の課題とも思われる。

(以下次号、文中敬称略)

文・ダンカン 隆賢 ウイリアムス



一九六九年生まれ。長野県の曹洞宗広沢寺で得度。

ハーバード大学より博士号取得し、現在、カリフォルニア大学アーバイン校助教授。東アジア仏教専攻。

著書：The Other Side of Zen (二〇〇四年、リンストン大学出版)

編著書：American Buddhism (一九九九年、Curzon出版)、Buddhism and Ecology (一九九七年、ハーバード大学出版)



# 禪

## SOUSEI | INTERNATIONAL 西洋人仏教者群像(1)



「西洋新仏教運動」の担い手たち

これから何回かにわたって、現在欧米で活躍している「西洋人仏教者」たちをとりあげ、彼らがどのような仏教理解にもとづいて、どのような実践を展開しているのかをできるだけ具体的に紹介していきたいと思えます。なかでも、大学等に籍を置くいわゆる「仏教学者」でもなく、また特定の伝統的仏教宗派に属する「仏教信託」でもない、「在野の」在家仏教指導者たちに焦点を絞るつもりです。それはもしアジアの伝統的仏教とは一線を画すような新しい「西洋的仏教」が将来生まれるとするなら、そういう人たちがそれがそれを創造する中心的な担い手になるだろうと思つてゐるからです。もちろん学者や僧侶の役割を軽視するわけではありませんが、しかし在野にゐる彼らは学問や伝統という枠組みから来る保護も拘束も受けないところに立っていますから、それだけ自由でのびのびとした発想をもって仏教を再発見し再構築して

### ステイブ・バチエラー氏 その一

いく条件に恵まれているといえるので

#### 貴重な学びの材料に

いまや長い伝統の重みに圧倒されあえいでいる感のある日本の仏教が彼らの大胆で斬新な試みから学ぶことは多いはず。その担い手たちに焦点をあてて「西洋新仏教運動」を紹介することが、閉塞状態にあるといわれる日本の仏教を起死回生させるヒントやインスピレーションの一端になれば幸いです。もちろん、仏教受容の先輩であるわたしたちとしては、西欧において仏教が現代化・西洋化される過程に潜んでいるさまざまな陥穽や歪曲に対しては冷静で批判的な態度をもって望む必要があることはいくらでもありませぬ。それもまた貴重な学びの機会になるでしょう。

いずれにせよ、これまで仏教が生まれ育った文化とは異なる文化的土壌に根をおろすという現在進行中の「文化的実験」を讀者のみならずといつしよに観察し考察していきたいと思ひます。仏教は過去の遺物などではなくいまも生成し続けている「生きだ運動体」なのです。日本の仏教もそのひとつとして脱皮を遂げてふたたび成長を開始

しなくてはなりません。海外の動向から学ぶことはそのひとつの契機になるのではないのでしょうか？

#### ステイブ・バチエラー氏

まず今回はわたしが著作のほとんどを読み、そのうちの二冊を日本語に翻訳して出版し、その人が指導するリトリート(集中的研修)に参加して講義を聞いたり個人的にいろいろ話をうかがうことができた人物、ステイブ・バチエラー(Stephen Batchelor)氏をとりあげてみます。わたしとほぼ同年代(一九五三年生まれ)であり、自分と非常に被長が合うタイプの人だといふ個人的な事情もありますが、なにより、仏教に対する深い学識と豊かな実践経験に加えて西洋哲学における議論や現代科学の知見をも踏まえて、現代における仏教の可能性を新鮮に掘り出そうとするその熱意と力量に、つねづね敬服の念を抱いているからです。

紙面の都合上、彼の略歴についてはわたしの訳した『ダルマの実践』(二〇〇二年 四季社刊)の訳者あとがきや彼のホームページhttp://www.martinebatchelor.org/stephenbio.htmlに詳しいのでそちらにゆずります。ここでは、十八歳でスコットランドの高校を



卒業してからインドへ旅し、僧侶となり、伝統的仏教僧院において師のもとでチベット仏教(インドのダラムサラ、のちにはスイス)、さらに韓国禪(曹溪宗松広寺)を計十三年にわたって研鑽修行したこと。その後、還俗し「仏教の源泉にあくまで忠実でありつつ、われわれが現に生きてゐる時代の言葉で語られる仏教とはどのようなものがあるべきかを、翻訳・著述・講義を通して明らかにする仕事」(『ダルマの実践』日本語版への序文より)を在野の仏教者として精力的に展開していること。そうした努力の成果の一つとして一九九七年に出版された『Buddhism without Beliefs』がアメリカで一般向け宗教書として「ベストセラー」となったこと。この本のなかで彼が描いた現代において意味のある仏教のヴァージョンが賛否両論の激しい議論を巻き起こしたこと。そのことによつてバチエ

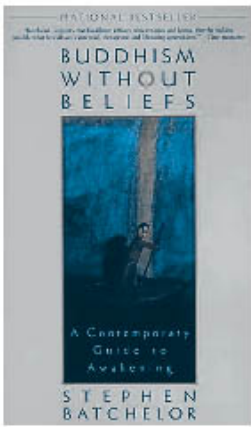


ラー氏が新仏教運動の有力な推進者の一人と目されるようになったことを指摘しておくにとどめます。

「宗教」になった仏教 VS ダルマの実践

パチエラー氏は正式の僧としてチベット仏教の内部に入って伝統的な修行を積んでいくうちに制度化・形骸化・教条化・硬直化・教団化した仏教形態（「宗教」になった仏教）に不満を覚えるようになります。「このシステム」「伝統的チベット仏教のこと」のなかでは疑問を抱く余地がまったくないのだ。そこで師はずでに悟りを開いた者であり、修行の道は完全無欠なものとされている。修行者が知るべきことはすでに完全に説明され尽くされており、あとは疑問をもたず教義を受け入れそれを素直に実践すればいいことになっている」（「The Faith to Doubt: Glimpses of Buddhist Uncertainty」）疑うための信—仏教的不確実性の発見（しかし、こういう仏教では彼自身の実存的な苦悩や疑問（たとえば「最後には死によって放り出されるこの世界に生まれて来る意味と目的は何なのか？」、「わたしはどこから来てどこへ行くのか？」、「死こそがこの世で唯一確実なことでありながら、それがいつ訪れるかはまったくわからない。わたしはどうするべきなのか？」））が体験的に深められることなく素通りされてしまい、修行すればするほど自分が決められた類型にはまっぴりいくようなことになってしまふと感じたのです。彼が疑問（「疑回」）を重視する禅に惹かれ、インドを去って「これなんぞ？（What is this?）」という公案を拈据する修行法を主唱する韓国の九山老師の門へ入った背景にはそういう事情があったのです。

「宗教」になった仏教」に対する批判はそのまま日本仏教の現状に対する批判になつていくように思います。彼によれば宗教とは「聖職者という一群のエリートたちによって管理統制され、いつでもどこでも常に妥当するとされる、ある人物（創始者）によって確定された信仰体系」のことです。そこでは創始者や教義への無批判で過剰なまでの崇拝・受容・信仰がひとびとに要求されます。こういう宗教はたしかに一時的慰安やつかの間の安心感をわたしたちと与えてくれるかもしれませぬ。しかし、それはいかに高尚に見えようとも依然として「水平的次元（所有の次元）」での右往左往にしかすぎないのです。それに対して「ダルマの実践」としての仏教は人間存在の深部にある実存的不安（生老病死の四苦はその具例）を直視しそれに対する洞察を深めよとわれわれに迫り（「チャレンジ」）「垂直的次元（存在の次元）」へと連れ出そうとするものだということです。



伝統的教義の根源的再検討

彼はこういう立場から仏教の基本とされているさまざまな教義を根本的に見直すことを試みます。たとえば、四聖諦は「信仰箇条」として信じるべき

四つの真理命題ではなく、それぞれ独特の様式での行動（苦諦は「完全に知る」、集諦は「手放す」、滅諦は「現に体験する」、道諦は「育成する」）を促すものだと言明します。「不思議の国のアリス」でアリスが地下の部屋で見つけた瓶に「わたしを飲め」と書かれたラベルがついていたように、四聖諦のそれぞれには「くせよ」と書かれたラベルが貼られているというのです。また仏教の創始者である釈尊を神格化（超人化）し、覺りを神秘的なものとして手の届かない遠方に置こうとする傾向に対しても、それはわれわれ自身の問題から仏教を遠ざけ無縁なものにする結果を招くとして批判を加えています。釈尊はあくまでも人間として「自らの実存的混乱を克服した偉大な教師」であり覺りは「身近にあると同時に遠方にもある」という逆説性をもつものだと説いています。

チャレンジ・問いかけとしての仏教

また、カルマや輪廻転生をめぐる伝統的教説に対しても批判や疑問を投げかけていますが、それについては次回、彼の「不可知主義的仏教」を論じるところで触れたいと思います。

彼にとつて仏教は信じることを強制される「ドグマ」でもなくそれに寄りかかって安心を得るような「究極の答」でもありません。それはあくまでもわれわれにとつての「チャレンジ」であり存在の神秘への「あくなき問いかけ」なのです。仏教を宗教、すなわち信衆のシステムと解するのは安定感・安全感を狂おしく願う人間の防衛機制に由来する誤りだと彼は言います。ダルマの実践はいわばわれわれが寄りかかっている虚構の支えを取り払い（まずその事実に気づき、それでは本當の自由を得ることができないということに気



づくことが先決ですが……)どこにもよりどころなどないという事実に覺めていく道なのです。逆説的かもしれませんがそこで始めて「無畏（畏れ無し）」ということがありうるのです。

わたしは禅に出会ったとき、そこに人間の甘えを許さない、ある意味で非常な厳しさを直感し、それゆえに禅に惹かれた人間ですから、パチエラー氏のごうい仏教のヴィジョンには大変共感を覚えるのです。人々の心情に迎合しそれに喜ばれるような「やさしい、口当たりのよい仏教」を提供するのはなく、厳しく問いかけ生き方の再吟味を鋭く迫るような（もちろんそれは慈悲のこころから発するものでなければなりません）「厳しい、耳に痛い」仏教の提示がこれからは必要になってくるのではないのでしょうか？

「続く」

文・藤田一照

1954年、長崎生まれ。1987年、米国マサチューセッツ州ワレール禅堂の住持として渡米現在にいたる。著書に「初こころのシルクロード」（共著、佐藤新聞社刊）、訳書にティクナット・ハン「禅への鍵」（春秋社刊）、スティーブ・パチエラー「ダルマの実践」（四季社刊）、「ファイリング・ブッダ」（四季社刊）等がある。

# 賛助会員御芳名

平成15年12月、16年2月

756326	群	463453333	325223322	山	301919009	661213124933	坊	神	30333243111	1010777016102	神	30426294	神	363303230272424	240232722202017	181813211	907869499	東									
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	東								
1310298377612	群	2262026229296	60342811	山	33252012619	293676756256	3530292017	373	千	8358116676	2	茨	611151049466	6251462	新	333313929226231	1946315563181590	3633									
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	東								
1116329652042	群	333333333333333	33023392927292523	山	101444038137	827110876	75625503414	12107	千	1115	115	山	363303230272424	240232722202017	181813211	907869499	東										
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	東								
7067464535276	群	743523333	333333333	山	3231302751834	3652376	33224194	1017617162153381321690	807461512827	時	512494674361	43636	99300282331	993157878	88	10	10	東									
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	東								
222124217281514102	群	938625	2	山	17810103102873	44342217	3	広	10945109105102	1	山	10120252114521	兵	4083537439253242	5214	兵	25	山	15107786840	393119	大	332374319613873					
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山				
13129614	山	10636251462613	2	山	10210281815	1741010127101161139691	341810	山	1411137141219199	939078	70696359	4919	山	69141381624942	323117	2	山	山	山	山	山	山	山				
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山				
32343232333	群	10114	2	山	1121010	10102654	2381961613822	9	山	62655593593537	4614149403735	36347311	242323	201716318714621	1191071422312	2	山	642214	6	山	37	山	6562604327				
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山			
32323232100101134132302914	群	13	山	4246139373230393430292726252634	17517812	967975	706741241914	8	山	23252222292289112	1053302219	37	山	62655593593537	4614149403735	36347311	242323	201716318714621	1191071422312	2	山	642214	6	山	37	山	6562604327
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山		
565921489714868430	山	41733	29272	山	65124129055365	山	185188101791311510910395817443	271712	山	2929437262520292562222229171	12106944433	33232317	3	山	4039242221	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山		
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山		
332267204175	山	339333292222262916	44639257232494	山	29257629191615	北	332333323131	38122929282424021	2163221	山	2922157413616	1191096907634	2725	7	山	7378289695768611	山	山	山	山	山	山	山	山	山		
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山		

御協力誠に  
ありがとうございました。

地震が怖い...  
**直さにやいかな**  
改修したい、いや、新築かな...  
こんなお声があるようでしたら  
ごく最新の社寺建築のSPCI法をお薦めします。  
筋交無しで阪神大震災の3倍の震度にも耐える、  
高さ広さにも殆ど縛り無く(高さ31m、長さ100m以上)、  
正に経済的で極めて安心有利な、  
伝統工法を科学したものです。  
勿論、全国各地に200軒以上の社寺建設の  
実績を持つ福井の石森屋からのお知らせです。  
●何なりとお気軽にお問い合わせください  
TEL 0776-61-2222 FAX 0776-61-2224



芳ヶ崎市前院本堂 2004年2月 竣工

大木山 永平寺 御用達  
**株式会社 石森屋** 社本店 カナダサービス  
〒910-1142 福井県吉田郡松岡町兼定島  
#しくは <http://www.ishimori.jp/>  
E-mail:ishimoriya@ishimori.co.jp

碧 屠 々

全国曹洞宗青年会会長 山口 英寿

地球も人もおかしくなつたと言われて久しくなります。最近では、BSE・鳥インフルエンザといった病気により生き物にも多くの変調が現れています。その様な中、致し方ない事情はあるにせよ、私達人間は病気に加つた家畜の生命を奪う事によって人への影響という問題を解決しようとしています。

一方で、猫や犬といったペットや野生の生き物の生命に対しては、同情的な感情を持つことが多く有ります。そういつた生き物を殺したり傷つけたりする事は虐待と言われ忌み嫌われています。そこでふと思つた事なのですが、鶏や牛を殺す事は虐待とならないのでしょうか。もちろん今回の一連の騒動における鶏や牛の処分が虐待に当たるものとは思いません。家畜の病気が人へ及ぼす影響を根本的に解決するには効果的な対策であるとは思いますが、人間の都合で生き物の命を奪つたり、逆に擁護したりする曖昧さには疑問を抱きます。御存じのように十重禁戒の第一に不殺生戒が説かれており、みだりに生命を奪う行為は最も禁じられている事です。

私達は生きていくために動物・植物の様々な命をいただいています。食料事情の厳しかった時代からの脱却を目指し、繁殖や養殖をする事で豊かな食生活を満たす為の努力は、先人達の切実な悩みから生まれ、現実として状況の飛躍的改善により、今、その恩恵を受けて生きています。しかしながら、そういった流れとは逆行して生き物の命の大切さを忘れ去っている様に感じます。

最近、火星探査に関する報道によると、火星には水が存在しそれと同時に生命体も有つたようだと言われました。何等かの事情で現在のような姿になつたようだと言われています。私達が現在生きている地球という星も、人間の都合が原因で、いつの日か火星のような星になつてしまわないように考えなければならぬ時が来ているのかも知れません。

エ コ クッキング

捨てればゴミ 活かせば 薬膳

ニンジンの皮入り卵焼き

赤いニンジンが野菜の「女王」とも呼ばれ、栄養が豊富です。特にベータカロチンが非常に多く、緑黄野菜のなかでもトップクラス。約1/4本の50gで、1日の所要量とれるほどです。ほかにも、ビタミンB<sub>1</sub>・B<sub>2</sub>・はじめミネラル類のカリウム・亜鉛・鉄、そして食物繊維も多く含まれています。

また、ニンジンに含まれるベータカロチンは体内でビタミンAに変わり、角膜や網膜などに潤いを与え、イキイキとした目をつくります。他にも、喉や鼻の粘膜も強くする効果があるので、風邪の予防にもなります。また、ビタミンAは、油に溶けるタイプのビタミンなので、油を使うことで、吸収率がアップします。ニンジンが炒めものやサラダなど、油を適量つかった料理がお勧めです。

ニンジンに含まれているアスコロビナーゼという酵素は、ビタミンCを破壊します。サラダや野菜ジュースなどで、ほかのビタミンC豊富な生野菜と組み合わせるときには注意が必要です。幸いにも酢味でこの酵素ははたらきが弱まりますので、酢を含むドレッシングで生のニンジンを和えてから、他の野菜と混ぜましょう。ジュースにする場合にはレモン汁を加えることで抑えられます。

ニンジンの皮には、とくに食物繊維が豊富です。今回は捨ててしまいがちなニンジンの削いた皮を利用した料理です。なるべく農薬の心配のないものを選びます。切干大根のような歯ごたえが特徴です。

◆材 料◆  
ニンジンの皮 / 1本分、卵 / 1個、油 / 小さじ1杯、塩と青のり / 各少々

- ◆作り方◆
- ① ニンジンの皮は、ザルに入れて半日干し、粗くきざむ。
  - ② 卵を割り、それらをほぐしてから①・青のり・塩を少々入れて混ぜる。
  - ③ フライパンに油を入れて熱し、②を入れて焼く。

\*具はシラスやかたつをぶしなどでも…  
ほかにも、松前漬や大根やかたつ、きゅうりなど甘酢つけにしても使えます。

編集室敬白

今号の特集「生老病死の大海を泳ぐ」禅文化学林レポートをお読みたいだき、皆様はどのようなことを感じ、また、お考えになりましたか？

今回の大会では、言葉や論理を超えた「覚悟」という言葉が一つのキーワードになりました。今、我々に要請されているのは、宗教者としてどう生きていくということ、それは日々の弛まぬ自己反省と自己啓蒙なのではないかと強く感じました。

時人高村光太郎が「最低にして最高の道」という詩をのこしています。高村の云う「道」とは、最低とか最高とかの相対的な枠組みから生ずる様な苦しみやあらゆるものを、大いなる慈悲の心で包み込みながら歩みを進んで行く道です。我々の持つべき「覚悟」と時人高村の云う慈悲心とは不可分であると考えられませんか。

我々にそれ程時間があるとは思えない。しかし、その道への扉はいつでも万人の前に開かれていて、信じ、進んでいきたいものです。

最後に、大会の会場をお引き受け下さいました曹洞宗青年会、そして何より、法務と多端の中ご参加下さいました全国の曹洞宗の皆様、本当にありがとうございます。

合 掌

「そうせい」に対するご意見・ご感想をお寄せ下さい。

あて先 〒369-0301  
埼玉県児玉郡上里町金久保701 陽雲寺内  
そうせいサロン係

平成16年度 全国曹洞宗青年会総会開催のご案内

- 期 日 / 平成16年 6月 4日(金)
- 場 所 / 曹洞宗信徒会館 桜の間
- 日 程 / 10:00 評議委員会  
13:00 総 会  
15:30 中央研修会  
17:00 懇親会

出席のお申込みについては、各都道府県・各所属曹洞宗青年会の評議委員宛に所定の用紙を送付致しますので、お取りまとめの上、事務局までご報告いただきますようお願い致します(なお、日程に関しては若干変更がある場合がございます)。

★多数のご参加、ご出席をお待ちしています★

# 北海道 第三宗務所青年会

発 足	昭和41年	会 長	高橋 舜治	副会長	橋本 英晃
事務局	橋本 俊裕	会 員	68名		

第三十八回 北海道第三宗務所青年会北見大会にて  
(於…北見市天恵寺)



**曹** 洞宗北海道第三宗務所青年会は、全五十八名の会員によって構成され、北海道内において最も古い青年会でありあります。

**本** 会は「曹洞宗曹壮年価値としての自覚に基づき、会員相互の向上を計り、布教活動の実践と推進及び相互の交流と親睦を計る」とことを目的にしております。

**主** な活動は、毎年五月に定期総会（本年度は五月十七・十八日留萌市正覚寺を会場）を行い、総会・講演会・各教区の事業活動報告等を致しております。

**平** 成十七年度には、曹洞宗北海道第三宗務所青年会が四〇周年を迎えるにあたり、会員一同、諸老師・諸先輩方々と盛大かつ有意義な記念大会をこれから計画していく予定です。

告等を致しております。

**ま** た、今年六月三・四日には、「第二十二回曹洞宗北海道青年会総別大会」を第三宗務所第五教区を会場に行い、「相田みつを美術館」館長の相田一人氏を講師にお招きして記念講演「相田みつをの世界―いのちの言葉―」を催す予定です。

**曹** 洞宗北海道第三宗務所青年会は、掲載した地図（赤い部分）を境目として頂ければ解る様に、宗務所内総横断距離が約一、〇〇〇キロ



北海道第三宗務所第一教区青年会主催 子ども禅の集いにて

を超える広い範囲にわたり、研修会等を開催するに当たっても各会員が自坊・師寮寺を何日間も留守にしなくてはなりません。

**し** かし、それでも会員相互の交流と親睦の目的を持って、会員一同万難を排して毎回多数の参加者を得て目的は達成されております。

**ま** た、各教区単位において、地域住民との親睦、地域の活性化にも努め、子ども禅の集い・徒弟研修会・托鉢・研修会等にも力を入れております。

**今** 後も会員一同、青年会発展の為、諸老師・諸先輩方の足跡を汚す事無く、期待に添える様努力していく所存で御座います。